

## J I A広島地域会まちづくり委員会から提案 (その4)

第30号 (平成29年7月15日)

日本建築家協会中国支部広島地域会のまちづくり委員会は、平和記念公園と広島市中央公園及びその周辺の被爆100年(28年後)のあるべき姿としてランドデザイン「ひろしま市民ひろば」を検討している。

前号までに、①バスセンターの整備、②河岸民有地を公園に(ガラガラポン再開発事業)、③回遊性の向上、④公共施設の再整備、⑤リバーウォークの拡充、⑥河川街の整備、⑦基町高層住宅の再整備を提案し、その後数回にわたって整備プログラムなどを検討してきた。

今回は、これらの提案を地下、地上、空中、水上の各レベルで立体的に連結し、夢のある空間とするとともに周辺地区との回遊性を高めるいくつかの提案をしたい。

### ステップ7. 周辺との回遊性を高める

#### ☆活動の場をつなぐ回遊園路を整備する

南北2km、東西1kmのエリアは、市民の憩いの場として広く利用されている。それぞれの場面をひとつつながり動線で結び、併せて観光周遊や散策、ランニングなどテーマを持ったルートを整備する。

#### ☆雁木を活用して水上交通路を整備する

元安川護岸の雁木(がんぎ)を活用して新白島駅から元安橋東岸までを約500m毎に船着場を設け、その周辺に河岸街を集中させる。ここに船による定期航行ダイヤを整備する。すでに運航している雁木タクシーやリバークルーズを雁木バスに発展するのも一案。発展的に縮景園や京橋・猿猴橋と連携しループ航路としたり、乗り換えを利用して瀬戸内海や宮島などとの一体的運用も考えられる。



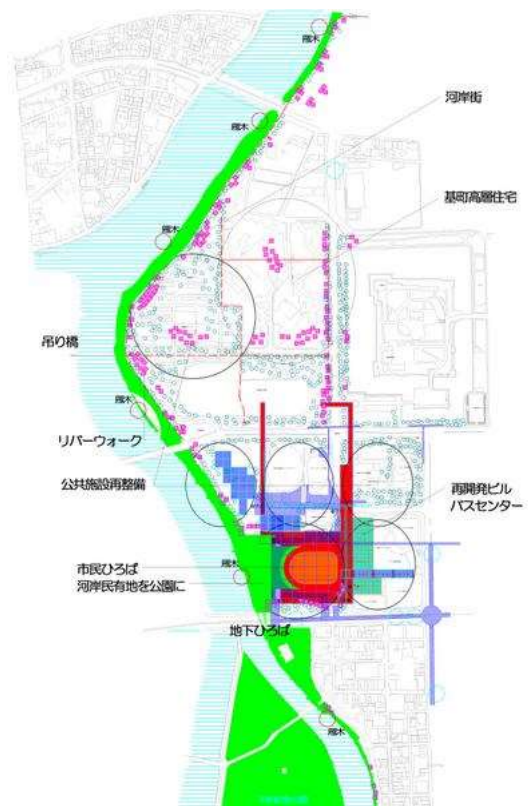
雁木タクシー



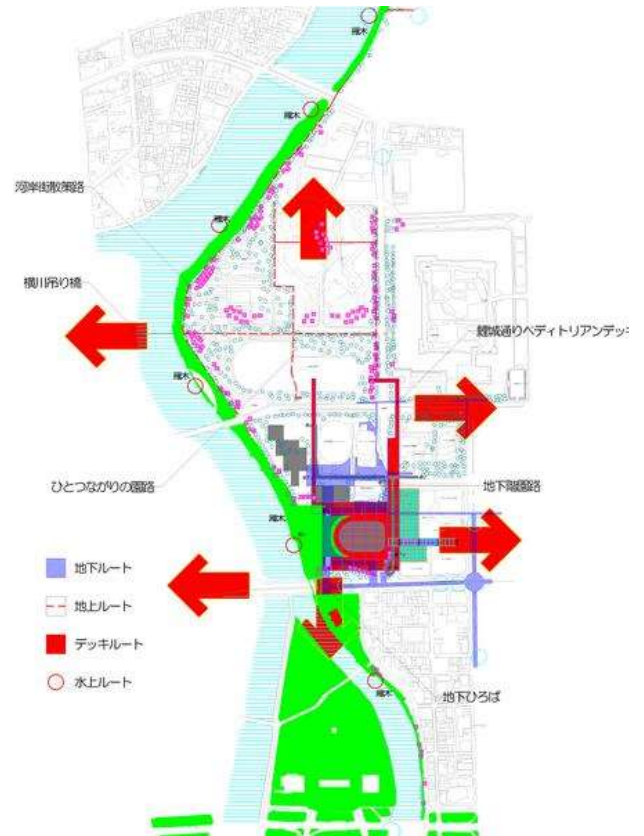
広島リバークルーズ

#### ☆地下ひろばで原爆ドーム・シャレオと結ぶ

平和記念公園に至る原爆ドーム前の電車・車道との交差を解消するため地下通路を整備する。商工会議所ビル等の移転により生じる中央公園との



ひろしま市民ひろばの7つの提案



周辺地区との回遊性を高める動線計画

レベル差を利用し、地下階ひろばとする。

さらに元安川河畔やシャレオの延伸と接続することで、地下レベルのネットワークを形成する。

### ☆ペDESTリアンデッキで鯉城通りとの立体交差

提案3で提案しているが、市民ひろばから県立体育館ゾーンを經由して北側の中央公園や基町住宅ゾーンに進むためには、鯉城通りと交差することとなる。ここまでペDESTリアンデッキを延伸して立体交差とし、安全で変化に富んだ動線とする。バスセンターの配置は、整備手順により変化するとしてもこれは必要である。

### ☆寺町と歩行者専用のつり橋で結ぶ

地域的な都市機能を担う拠点地区としての横川地区からのアクセスを図るため、横川・寺町地区から基町市営住宅あたりへ歩行者専用橋を整備する。写真は、共に神奈川県にあるつり橋で、地域のランドマークとなっている。ひろしまの特性を表現して、木製などはいかがであろうか。



水の郷大吊り橋(316m)



風の吊り橋(216m)

横川歩行者専用橋のイメージ

そもそも、広島街づくりは被爆によって新しい局面を迎え、戦災復興都市計画に端を発している。そして広島平和記念都市建設法は、ただ被爆都市を復興整備するのではなく、戦争を放棄し、平和国家を建設するための国際平和文化都市を目標としている。

そのために当地区は、公園を利用することにより平和への営み、平和の活動をする事が求められている。ただ憩ったり、祈ったりするだけでなく、そこで生きる喜びや平和を作るためのアートを展開させるなど、市民の活動を育む機能が求められている。

今回は、これまでの提案を総合したグランドデザインを掲載する予定である。

(日本建築家協会広島地域会まちづくり委員会 前岡智之)

第31号(平成29年9月15日)

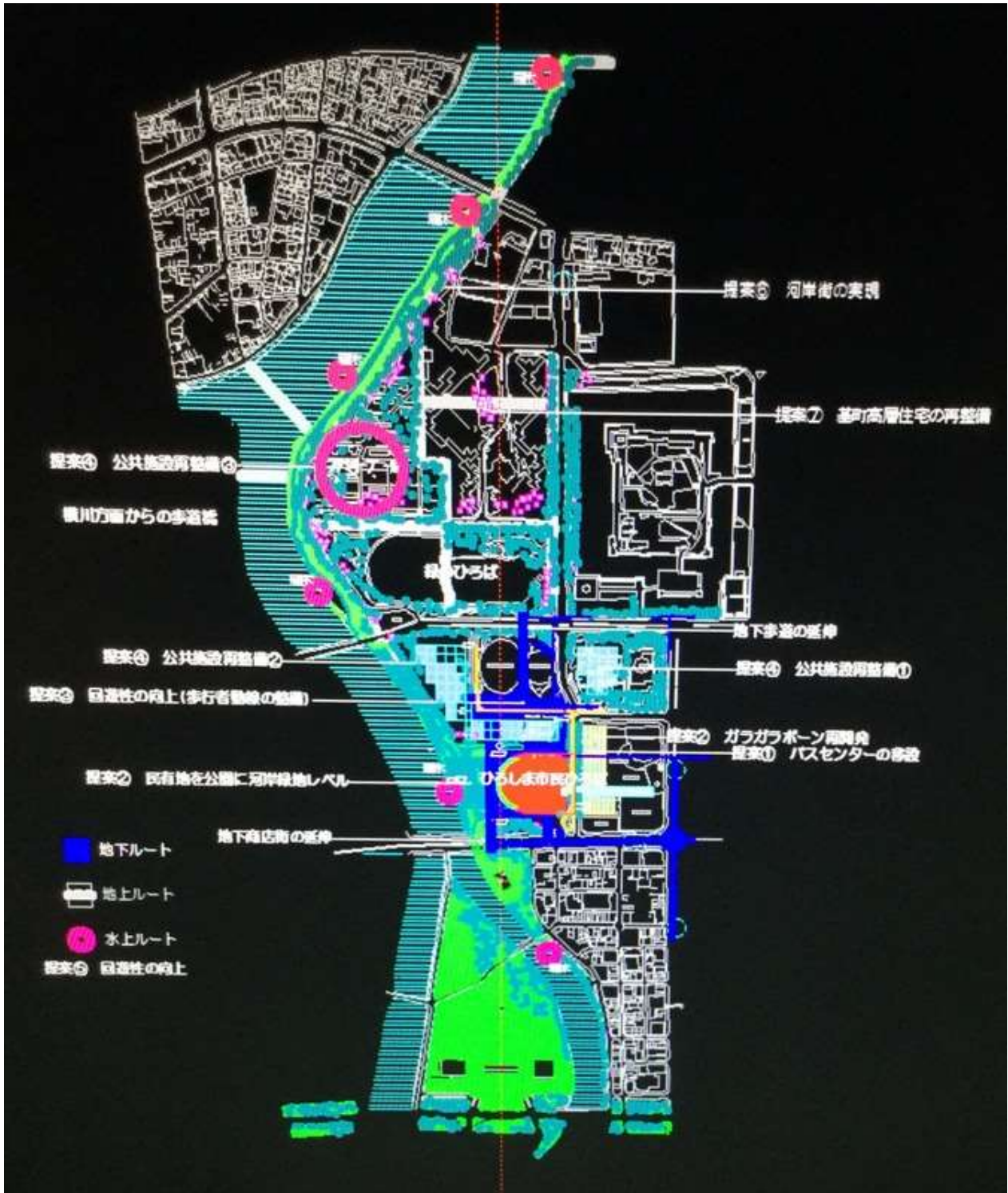
日本建築家協会中国支部広島地域会のまちづくり委員会が検討してきた平和記念公園と広島市中央公園及びその周辺の被爆100年(28年後)のあるべき姿をここに要約する。

### ☆全体計画図(案)

#### なぜグランドデザインは必要なのか

広島中央公園地域は、被爆後の復興を経て、広島の都心のコア空間として位置付けられている。被爆後72年を過ぎる今日、幾つかの課題をもつと共にその潜在的な可能性を充分には発揮していないことをここまで指摘してきた。被爆100年を目標年とし、時代の変化を考えて検討し直す時期が来ている。





この地域における長期間かつ広範囲にわたる計画であり、多くの人たちが関わるので、個々の方策や手段を考えるとときに総合的なランドデザインが不可欠である。もちろん、ランドデザインは策定するプロセスや策定に関わった人たちの合意形成の過程が最も重要である。この提案が、そのためのたたき台としてこれからの検討に資するならば幸いである。

### ★基本理念

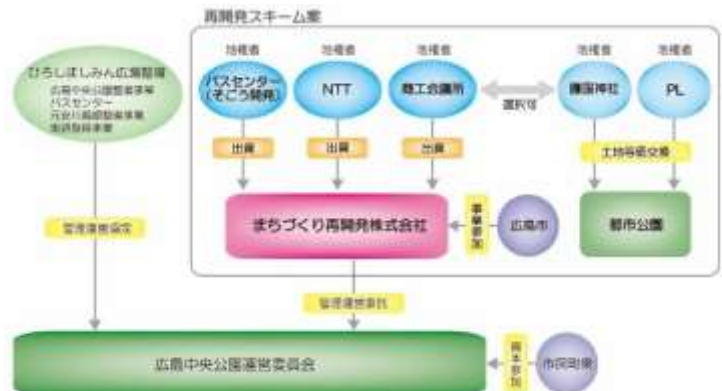
広島のみちづくりの憲法ともいえる「広島平和記念都市建設法」の精神に基づき、平和記念公園から広島市中央公園一帯が**国際平和文化都市ひろしま**を象徴する空間となるように、未来に向けて発展させる。

## ☆基本的な考え方

- 原爆ドームを中心としたこのエリアは、広島から世界に恒久平和のメッセージを発信する重要な役割を担っているため、平和の祈りと平和の実感が連続して体験でき、市民のみならず国内外の多くの人が出会い、交流する緑豊かな空間とする。
- 特に、旧球場跡地エリアは、平和記念公園及び原爆ドーム周辺と中央公園内にある文化施設群や芝生広場などのオープンスペースをつなぐ場所に位置するため、世界遺産のバッファゾーンとしての品格ある雰囲気と都市的な賑わいのバランスの取れた空間とする。
- 旧球場跡地エリアは**ひろしま市民ひろば**（仮称）とし、様々な用途に利用できる可変性のある空間とする。その周囲に広島の歴史や日本文化に触れ、来訪者が互いの国の理解を深め合える機能を備えた国際文化交流施設を配置する。
- 元安川及び環境護岸と緑道により平和記念公園、原爆ドーム、中央公園はつながっている。旧球場跡地エリアと基町環境護岸を一体化させ、土手沿いのリバーウォークと雁木を利用した水上交通を拡充することにより、このエリア全体と街とのつながりを強固なものとする。
- リバーウォーク（愛称：基町ポップラ通り）の中央公園側には公的な貸店舗を適宜配置し、親水広場や雁木タクシーの川の駅などと相まって賑わいのある河岸街を形成する。
- 幹線道路により分断された南北の動線を立体交差により解消し、ひろしま市民ひろばを中心とした歩行者用のネットワークを作る。  
また、周辺の電車、J R、アストラムラインの最寄りの駅とのアクセスを改善し、まち全体の回遊性を向上させる。

## ☆実現に向けて

- 商工会議所ビル等の河岸沿いの建物を移転させるため、N T T所有地の一角を確保し、N T T、商工会議所、バスセンターなどが中心となって再開発事業に取り組む。  
再開発ビルはひろしま市民ひろばに開かれている。バスセンターは2階にバスが乗り入れ、1階に玄関ホールなどを想定している。
- 既存の老朽化した市の建物（青少年センター、こども文化科学館、中央図書館、ファミリープールなど）は新たなニーズに対応したメディア、文化、科学、国際、こども施設に再編し、新たに追加する国際文化交流施設とともに適正再配置を行い、予算の裏付けに基づき計画的かつ段階的に整備する。
- 基町住宅団地も中層住宅は順次解体して公園に戻す計画である。高層住宅の方は耐用年数まで残すとして、管理運営などソフト面を工夫し、宿泊施設や事務所・店舗など柔軟に用途変更可能なシステムとする。特に地上部分のピロティと屋上庭園は設計当初の意図を尊重し、市民に開かれた空間として周辺環境との調和を図る。
- 世界から英知を集めるため、公共施設等の適正再配置案と長期予算計画案が揃った段階で、基本理念、基本的な考え方など設計条件を整理し、ひろしま市民ひろばを中心としたエリアを対象に国際コンペを行う。
- ひろしま市民ひろば及び中央公園のオープンスペースの管理運営は、ひろしま市民の協働の場として、自立し多様な変化に対応できる体制を整える。



再開発スキーム案及び中央公園の管理運営体制案